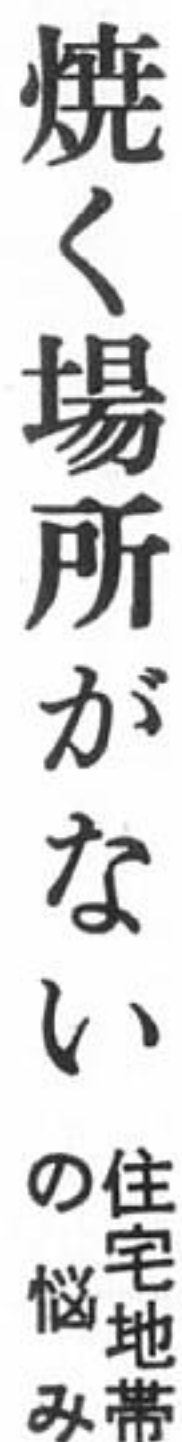


発行 秋田県東由利村役場 印刷 KK本間印刷所
毎月1日発行(1部8円)昭和42年7月21日第三種郵便物認可

世帯数 1,569世帯
人口 7,143人
男 3,512人
女 3,631人
前月に比し世帯は同数
人口は11の増

一般会計	434,731千円
特別会計	230,342千円
内訳	
国保	93,370千円
黒診	927千円
簡水	125,632千円
玉財	10,413千円



「ゴミ」近年その量はますます大量になり、その質は燃えない、腐敗しないで処理がむずかしくなっている。それが、古来からの唯一の処理法、河川への投棄によっており、生活環境は破壊されるいっぽう。そこで住民は、ゴミを、いかに身辺から除去しているかを知り、今後のあり方を考えるため、村では六月下旬、全村くまなくアンケートによる調査を行なった以下、その結果を報告すると――。

六四集落中、解答を寄せられなかったのは、島・宮の前・黒沢・日照坂・野田・中のも、いまひとつ意識が低いようにも印象づけられた。

・杉蔭・畑村・奥か沢・多形・智者鶴ら一五集落であり、これらは村内のうちでも、比較的人家が密集していない農家地帯でもあるので、ふる釜その他で、ゴミ処理にはそれほど困っていない集落と判

農家では自家処理

アンケート集計にあたつては、ひとつの見かたとして、村内のうち、比較的住家が密集している地域と、そうでない純農家地帯とにわけて、関

農家では自家処理
アンケート集計にあたっては、ひとつの見かたとして、村内のうち、比較的住家が密集している地域と、そうでない純農家地帯とにわけて、関

ゴミでも、農家地帯では自宅
で焼くのに対し、焼く場所が
ない住宅地帯の悩みが浮き彫
りされている。

・ つぎのアンケート結果の中
で、設問に対する回答率を、
農家地帯は数字、住家密集地
帯はカッコ内数字で表わした

反省したいゴミは
捨てよという意識

▽台所から出る残りかすは。
①家畜の飼料三七割(二三割)
②堆肥 四二 (四四)
③あき地に捨てる

七 (一一)

④川に捨ててゐる 一 (七)
⑤その他 二 (三)
▽紙くず、布きれ、ビニール
プラスチック製容器品。
①自宅で焼く五五割(四四割)
②川原で焼く一五 (二七)
③あき地に捨ててゐる 八 (一八)
④川に捨ててゐる 一八 (二四)
⑤その他 三 (七)
▽ガラスかけなどは。
①所有地に穴を掘って埋める 二二割(二七割)
②あき地に捨ててゐる 三四 (四八)
③川に捨ててゐる 三五 (一八)

④その他 七（七）
▽鉄くずやあき缶は。
①鉄くず屋に売る 七〇割（六九割）
②あき地に捨てる 一〇（二四）
③その他 一五（七七）
▽ゴミ処理に意見があつたら
書いてください。との問いに
は、①ゴミ処理場を集落ごと
に設置してほしい九割。②村
営のゴミ運搬車巡回を希望一
八割。③処理場または捨て場
を指定してほしい九割。④燃
えないゴミを処理できる設備
を希望三割。⑤村の指導を望
む一割。

←あついで盛りに
朝のうちに収穫
作業、袖山で

→農協への集荷作業。最盛期には一日一〇トン。

荷、一五ギの袋づめにされ、
この日の夜、青森市場へ向け
て、まず四斗が初出荷された
このあと、八月中旬ころまで
は連日、一〇ギ程度の集荷
が予定されている。

△：一五ギの一袋には平均し
て八個入っているが、一本の
苗には三個、一〇ギに一、八
〇〇個。かりに一個五〇円と
すれば九万円、四〇円では七
万二千元の計算になるのだが
…。

△：生産者は「はじめつから
甘い汁は望まなかった。単に
休耕しても田んぼには手入れ
全作業を通じて、余分な芽か
き、ホルモン処理が、いち
ばんの忙しき五海保

村長再選で記者会見

任期満了にともなう本村村長選挙は、七月二十五日立候補の届出が締め切られ、二十四日に届出をすませた、現村長以外は候補者がなく、小松栄男氏が無競争当選をし、今後四年間、住民の与望になうこととなった。

再選後の、主要日刊新聞等記者会見（秋田さがけ、NHK、朝日、毎日、読売）で小松村長は、これまでの四年の四年間にくらべ、さらに難問山積の四年間になろうと前置きをなして、山村振興、過疎地域振振興、広域行政の三つに盛られ

た計画を柱に、魅力ある生活環境をつくりたい。

まず本村は、県内でも、尾去沢町、上小阿仁村に続いて過疎化現象が激しく、それだけに行政にもむずかしさがある。

そこで①村道の改良と舗装化を進め、生活圏の利便につとめる。②圃場整備により、将来への展望に立つ農業の基盤整備に努力。③社会教育施設を整備して、住民が一堂に会し、心を通わせる場をつく

りたい。④水道の布設により生活環境をよくしたい。と語り、さらに、過去四年間は、住民から心のこもった良識を寄せてもらい、当初、難問と思われた行政課題も、住民の善意によって解決できて、心から感謝しているなど、今後変らない協力を訴えた。

写真、新しい四年間は、魅力ある生活環境づくりに取り組みたい。記者団に再選後の課題を語る小松村長。

水泳プールが完成
▽…本村では第一号
待望久しい、本村として
は第一号の水泳プールが完成

成した。
住民からの声が高まって
いた水泳プールの建設は、
統合中学校の実現を契機に
今春来、同校体育館の後方

に、八百九十五万円を投
て、本莊市池田工務店、
田市秋田機械設備の手に
って進められていたがこ
ほど完成、七月二十七日

希望のブル開きが行なわれた。

ブル開きには、ことしの中学水泳競技で全県三位女子リレーでは県大会新記

録に輝やいた、本莊南中学校水泳部の模範競泳。コーチには、元県水泳連盟理事長の長沢正氏（長沢議長の実弟）を迎えて行なわれた。佐藤東由利中学校長の話によると、アンケート調査の結果、全校生徒のうち、女子では七七割、男子では二八割が泳げるとこたえているという。次代になう、たくましい体づくりが切望されるゆえんである。このプールは、中学校が管理するが、シーズン中村内各小学校の高学年児童にも日割りをきめて開放される。プールの大きさは、水面の長さ二五呎、幅一三呎で六コース。循環ろ過機械装置により、一日七百人が使用しても大丈夫という、浄化能力がある。また入水前の足洗、全身消毒用の薬そうシャワー、洗眼装置が備えられている。

【写真】この日は朝から水銀柱が急上昇。長沢正氏による、正しい泳ぎ方の指導に、女子部の目が集まる。

▽：えびずカボチャの収穫がいま最盛期。東由利村農協の玉米地区では昨年来、休耕水田の活用のためチエをしぼって「長岡交配えびずカボチャ」に着眼した。それは、①果実が一・二ギ内外と手ごろで味は東京カボチャより粘りがあつてうまく、市場性に富んでいる。②低温でもツル伸びがよく、早期出荷ができる。

△：玉米地区での栽培面積は八・五畝。主な栽培団地は、黒淵三畝、館合三畝、袖山二・五畝であり、栽培農家一戸の面積は、五畝から一五畝程度。暑い日差しの中でいませつせと収穫に追われている△：苗畑から本畑に定植されたのは五月の中旬、一〇畝あたり六〇〇本から七〇〇本。

が、いるので、米の七／八俵あたいてもかせげれば、という気もちであつた。上々のできとまではいかないが、はじめの貴重な体験をいかして、来年はもっといいものを作つてみたい」（袖山、畠山貞一郎さんの話）

「米が余つた、困つたでしょう、と手をこまねいても金は入つてこない。耕地を遊ばせるくらいなら、少しばかりの難儀など、いとうてはいられなかつた。やってみて、ソロバンが合わなくとも、自分が納得できれば、それでよい。このカボチャは、すいから栽培方法と同じというから来年はそこにも体験をいかしたい」（五海保、荏野高さんの話）。一連の取材を通じ、一歩一歩のふみしめ方に、十

郎さんの話)

がいたので、米の七・八俵あったいでもかせげれば、という気もちであった。上々のできとまではいかないが、はじめの貴重な体験をいかして、来年はもっといいものを作ってみたい」(袖山、畠山貞一郎さんの話)

誰の為に働らくか

一票投じた決め手は

——先の参院選挙では、どんな考えを一票に託したか。小松秀穂（黒沢＝農業）政見放送と選挙公報を見て、公約が現代社会に必要なものであるか、清新な主張をする人であるか、年齢が若い人か、自民党以外かなどを考慮して投票した。当選にはこだわらなかった。

佐藤清一（石高＝左官）出せかぎ中だったし、不在者投票をしてまでとは思わなかった。

挑もう情熱の灯に

しぼんだ青春はゴメン



佳和君

青年の名のもとに

深さのある創造を



秀穂君

成人者座談会 はたちの主張

ことしの成人式は、8月15日、役場で行なわれるが、それに先だって本紙では、成人者の中から7人の方々に出席をねがい、「はたちの主張」と題する座談会を開催した。座談会では、①参院選挙ではどのような願を一票に託したか。②村政の問題につき日ごろの考え。③それぞれの青春観。④青年活動の展望。⑤日ごろ、あきたらないと思っていることがあったら、それは何か。⑥農政の転換に農民は何を自覚しなければならないか。⑦村に住みつこう、そう思った根拠にはどんな考えがあるかなど、午後1時から始めたのが、夜7時をすぎても語りつきなかつた。なお成人該当者数は198人、このうち村に居住している方は108人である。

観念的な失望捨てよう



——青年会、青年活動のあり方はこのままでよいのか、もし発展させるとしたら。繁子 いろいろな人と友だちになりたい。そして友だちから自分ないいものを吸収したい。そうすれば考え方も豊富になるのではと思う。佳子 矢島で最近、一〇〇人を越す青年たちのフー・ダンスの会があった。そのとき、大勢の大人たちも参加していたが、年代をこえた互いの理解が、うらやましかった。若い芽を育てるため、大人たち、栄子さん。左、佳子さん

伸びるには刺激の場

青年に環境を与えよ



健司君

青年会が総会のため借りるのに苦労した。新しい公民館ができるまで、解放してもらえないものか。文一 総合庁舎のように団体に分割して貸したら。佳和 管理人を住ませたら。秀穂 小阿仁では、公民館の使用料収入が六十万円余だと聞いている。考えようでは方法がある。繁子 公民館図書、もっと読みたいものを充実してほしい。文一 とくに農業技術書などは、時代おくれの感が深い。技術書などは実際には利用が少ないのだが。

七〇年代の自覚

素材から商品生産

——農政が大きく変わった今日、農民自身はどのような意識をもたなければならないか。秀穂 六〇年代は素材生産でよかったが、七〇年代には商品生産をしなければならぬと思う。健司 現在の一分でいどの耕地では、委託生産をし、労働力を他方面にもって行かねばならない。佳和 同地域の人が集まる。同じような力関係の人が集まる。まず現状では無理



【写真は下郷分校の壮行会】

村に残った理由は

こよない自然が

——国勢調査人口を見る。四八割の減少。世帯は一〇・五。世帯六・五。の減少である。ちなみに村では、山村振興、過疎振興、広域行政圏などの三つの計画



文一君

により、生活環境を大幅に大きくする施策を進め、村に魅力が出てくれば、過疎化にも歯どめができると思ふ。秀穂 出かきに行きつてみると、あまりに制約が多すぎた。自然環境の悪化がひどかった。夏にはセミの声を聞きながら農耕に励んでみてほしいと思った。

下郷分校が

全国体育大会へ

高等学校校定時制・通信制の全国体育大会は八月下旬、東京で開かれるが、この大会には、下郷分校から、六人の選手が県代表として出場がきま。健司が期待されている。日本武道館での剣道には、一年生の小笠原和彦君と浅田照信君の二人、秋田県チームの監督として同校の戸田先生があたる。国立競技場での陸上種目には、四年生の小松和子さんが円盤投げ、一年生の伊藤千鶴子さんは、一〇〇メートル競走に出場する。東京体育館での卓球には、三年生の畑山みず子さん、二年生の高橋順子さんが、同校の声援を一身にうけて出場する。

七月二十三日の選手壮行会で各選手は、残り少ない一日一日だが、さらに励んで力の一助をつくつてほしい。と元気なところをみせた。【写真は下郷分校の壮行会】



- 出席者
- 小松秀穂 君 (老方)
 - 小松健司 君 (館合)
 - 小松佳和 君 (田代)
 - 鈴木文一 君 (沼)
 - 佐藤清一 君 (石高)
 - 佐藤繁子 さん (老方)
 - 小松佳子 さん (館合)
 - 菊地栄子 さん (老方)
- 司会 公民館主事 青木和雄
- 村報担当 小松文介



清一君

——農政が大きく変わった今日、農民自身はどのような意識をもたなければならないか。秀穂 六〇年代は素材生産でよかったが、七〇年代には商品生産をしなければならぬと思う。健司 現在の一分でいどの耕地では、委託生産をし、労働力を他方面にもって行かねばならない。佳和 同地域の人が集まる。同じような力関係の人が集まる。まず現状では無理